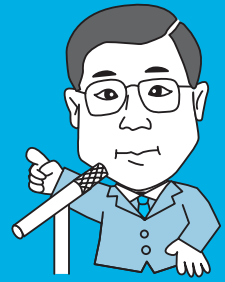


市長の まちづくりメッセージ

市役所では、毎月の初日に「市長のまちづくりメッセージ」を放送しています。市民の皆さんと『共創・協働のまちづくり』を進めていくため、その一部を掲載します。



「地域に広がる共創・協働」について

先月19日、今年で10回目を迎えた「島田川ふれあい夏まつり」が市民ホール中庭で開催され、島田小学校3年生による総合学習の発表や、バンド演奏など数多くのイベントがあり、多くの人でにぎわいました。

私も例年参加していますが、今年はいくつかのイベントが中止になりました。また先月27日にはふるさと火まつり「周防柱松」も開催され、多くの人が参加され楽しんでいました。

これらのイベントでは、地域の方々が中心となり、地域の個性を活かしながら、自主的に運営されているのに加え、他の地域の方々も応援参加され、「共創・協働」型の



イベントとなっていて、職員として多数参加されていることにも対し、私自身嬉しく感じました。

光市では「地域力」を十分に機能させ、共創・協働のまちづくりへつなげるため、公民館の自主運営をはじめ、地域づくり支援センターを中心に、「住民自治による地域づくり」を積極的に進めています。

「住民自治による地域づくり」を積極的に進めています。着実にその輪は広がっています。今後はこれをさらに強固なものにし、地域コミュニティの活性化を図り、地域で互いに支えあい、市民の方々が安心して健やかに暮らせるまちづくりを進めていきたいと思っています。

地域活動は市政の、まちづくりのもっとも基本的な部分です。またこのような活動を通して、「人を知り、地域を知る」ことが、市の職員として必要不可欠であり、貴重な財産となります。職員の皆さんも一人ひとりがさらに「共創・協働」のあり方をしっかりと考え、施策にも反映していきたいものです。

「環境意識と行動」について

今、光市では積極的に環境問題に取り組んでいます。先月のメッセージでも紹介した「ふるしき講座」や「こみの行方見学ツアー」が開催されています。

「こみの行方見学ツアー」は、応募多数のため当初3回の実施予定を5回に変更するなど、市民の反響も大きく、私も先日、第1回目の見学ツアーに参加しました。

午前中はこみの焼却施設である恋路クリーンセンターや、そこで発生した焼却灰をセメント原料にする周南市の工場、午後にはリサイクルセンター「えこぱーく」と後畑不燃物埋立処理場を見学し、私たちが出したごみがどのように処理されているのかを、実際に目で見て学習しました。

参加者の皆さんからは「処理する側に立って分別の必要性をしみじみ感じた」、「分別が出来ていない異物の混入に驚いた」、「こみの排出者としての責任を痛感した」、「こみ問題の重要性がよくわかった」など多くの「ご意見を頂き、改めて、現地、現場を見ていただくことの重要性を再認識しました。」

私は、これらの事業を通じて、市民の方々の環境問題に対する意識の高まりも肌で感じました。

繰り返しになりますが、環境問題は市全体で取り組んでいくべき問題であり、「行動すること」が何より重要となります。元ノルウエー首相のブルントラント氏は「この地球は先祖からの贈り物ではない。子孫からの預かり物だ」と述べています。

環境問題への取り組みはまだまだ始まったばかりです。これから光市を環境の先進地としていくためにも、職員の皆さん一人ひとりが環境問題について率先して考え行動しましょう。

